県政だより 福井県

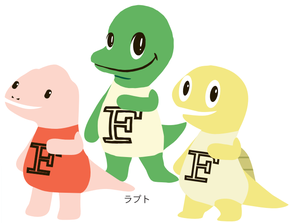
平成28年度 当初予算成立

「元気あふれるふるさと」を目指す

2月定例県議会において、平成28年度当初予算が成立しました。一般会計予算額は、前年度と比べて0.9%の増加となり、6年ぶりに地方財政計画を上回りました。
平成27年度は北陸新幹線や中部縦貫自動車道など、高速交通体系の完成への道筋が、一段と明確になってきました。また、近年は「幸福度日本一」との評価、子どもの学力・体力日本一、高校野球やバドミントン、競技かるたでの活躍など県民の実力が高まり、恐竜や食、歴史など福井フランドが注目を集めています。そして、2年後の福井しあわせ元気国体・大会、4年後の東京五輪など、「幸福日本一の福井」を国内外に発信する好機を迎えます。
平成28年度は、このタイミングを生かし、地方創生・人口減少対策をはじめとする施策をしっかり連携させ、強い突破力とスピード感を持って実行。住むひと・来るひとが幸福を実感し、人生を豊かに感じる「明るく元気あふれるふるさと」を目指します。
今回の当初予算は、国の「一億総活躍社会の実現に向けた緊急対策」とTPP対策に重点を置いた補正予算を積極的に活用し、平成27年度2月補正予算と一体的に編成しました。

5つの重点施策

① ふくい創生・人口減少対策の徹底実行
② 高速交通体系の整備促進と整備効果の全県展開
③ 突破力のある人材の教育（学力向上対策）
④ TPP対策
⑤ 福井しあわせ元気国体・大会に向けた準備の加速化



予算の規模

会計区分	28年度当初予算
一般会計	4,864億　618万円
特別会計	150億8,286万円
企業会計	368億6,741万円
合　計	5,383億5,645万円

ふくい創生・人口減少対策の徹底実行

福井へのU・Iターンを促す

県外の大学生と県内企業との交流会を開催したり、Uターン就活先輩サポーターに登録したOB・OGによる就活の相談対応を行います。

学生と就活女子応援員との交流会

社会人に対して、都市圏からの転職相談をトータルに行う移住フェアや、転職希望者との企業面接会を開催します。
また、U・Iターンを促す「プラス1雇用運動」を展開。特に、女性の雇用を拡大し、採用した企業に対し、人件費などを助成します。
さらに、県内で人手不足となっている業種に就職した場合、奨学金の返還を支援します。

県内の学生を福井に定着

県内全ての大学生等が集い、学ぶ拠点となる、大学連携センター「Fスクエア」を4月9日（土）、アオッサ7階にオープンします。県内大学が共動して、恐竜学や福井の歴史に関する講義、学生と県内若手社員等との交流会、高校生向けの模擬講義などを開き、県内就職・進学の意欲を高めます。
オープン当日には、学生以外も参加できる特別講義や、ガレリア元町商店街での学生によるステージイベント等を開催します。

F-SQUARE

センターでの共通講義（イメージ）とロゴマーク

ふるさと福井を想う人を増やす

県外在住の福井県出身者や赴任経験者など、福井ゆかりの人を愛着県民と位置づけ、県内の話題を随時提供。将来の移住・定住につなげます。愛着県民には「愛着県民カード」を発行。カードで買い物をするとポイントが貯まり、ふるさと納税のように寄付できる仕組みを作ります。
また、地域において県民に希望や幸福をもたらす活動をしている人などを「ふくいの幸福人」として顕彰したり、希望の実現を応援する県民応援団を結成するなど、希望や幸福を実現し、分かち合う活動を進めます。

市町と一体となった新ふるさと創造

市町の戦略に基づく、地域資源を活かしたまちづくりや人・モノの誘致など、特色ある施策を支援。県と市町が一体となり地方創生・人口減少対策を進めます。

県民全体で結婚応援

結婚の良さを伝えるCMを制作したり、恋人や夫婦を対象に割引サービスなどを行う「ハッピー・デート」プロジェクトを展開し、結婚を前向きに考える機運をつくります。
また、「地域の縁結びさん」への登録や、企業・団体の「職場の縁結びさん」への登録を呼びかけ、縁結び活動をさらに拡大します。

いいね！結婚ふくいキャンペーン

出産・子育てを安心サポート

妊娠・出産から子育てまで切れ目ないサポート体制を実現し、全国トップの子育て支援策を、さらに拡大。初めての出産の場合、出産直後の医療相談を応援します。
さらに、家事支援を妊娠中から受けられるようにするとともに、出産後一か月間は無料化します。
また、保育所などで急に病気になった子どもを、病児保育施設のスタッフが迎えに行き、保護者が迎えに来るまで預かるサービスを応援します。

病児保育の様子

高速交通体系の整備促進と整備効果の全県展開

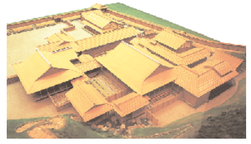
進む北陸新幹線・中部縦貫自動車道の整備

福井県の立地環境を大きく向上させる高速交通体系の、一日も早い開業・開通を目指します。
北陸新幹線金沢・敦賀間については用地取得を加速させるとともに、九頭竜川橋りょうや新北陸トンネルの工事を進めます。敦賀以西については、年内の若狭ルートの決定を政府・与党に求めます。
中部縦貫自動車道については、永平寺大野道路の平成28年度の全線開通を予定。大野油坂道路のトンネル工事などを進め、北陸新幹線敦賀開業に合わせた平成34年度までの全線開通を目指します。

九頭竜川橋りょうの工事

新たな観光拠点の整備に着手

高速交通体系の開業に向けて、これまでも、福井駅周辺のまちづくりを行ってきており、引き続き、平成29年春の山里口御門の復元や、「福の井」再整備などを進めます。
また、開業効果を県内全域にくまなく波及させるため、官民が総力を結集して、新しいまちや観光地の形成などを進める「高速交通開通アクション・プログラム」を実行します。
例えば、日本最大の中世都市遺跡・一乗谷朝倉氏遺跡の価値や魅力を紹介する施設として、「一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）」を整備。東京五輪が開かれる平成32年夏のオープンを目指します。
恐竜博物館は、年間入館者数88万人を超え新記録を更新中。年間100万人の実現に向け、アミューズメント機能を持つ第2恐竜博物館整備の準備を開始します。
また、中部縦貫自動車道の大野までの全線開通に備え、六呂師高原での自然体験やスキー体験、乳製品の加工体験などを充実。恐竜博物館と並ぶ奥越の観光拠点を目指します。
さらに、地質学的年代測定の「ものさし」として世界に誇る水月湖年縞の研究展示施設の整備に着手。45メートルある年縞を直線的に展示し、7万年の歴史を体感できるようにします。


朝倉館の一部を原寸大で復元（イメージ）

周遊・滞在できる観光エリアづくり

新たな観光スポットづくりや、それらを結ぶ広域交通の整備により、観光客が複数の市町を周遊し、長く滞在できるよう、観光エリア全体の魅力を向上します。平成28年度は、市町が連携して行う、観光エリアづくりに向けた計画の策定をサポートします。

福井の魅力発信

ダントツフランド「恐竜」を全国へ

北陸三県共同の観光誘客キャンペーンや、東京都庁展望台での出向宣伝、福井県で発見された肉食恐竜フクイラプトルが登場する「動く恐竜ショー」など、大都市圏で「恐竜」を前面に打ち出したプロモーションを強化します。

東京での出向宣伝

海外から福井へ呼び込む

県内の外国人宿泊者が、昨年度に比べ約2倍に増加。この機に、外国人に人気の「ZEN（禅）」を中心とした福井県の新たなブランドを、海外の旅行会社に売り込みます。

突破力のある人材の教育（学力向上対策）

ふるさと福井を学ぶ教育

今後5年間の福井県の教育政策の目標や基本方針をまとめた「教育に関する大綱」に基づいて、夢や希望を実現する「突破力」のある人材を育成します。
橋本左内や由利公正など、福井の生んだ偉大な先人から生き方や考え方を学べる教材「ふるさと福井の先人100人」を中学・高校生に配布。また、百人一首や古文などの福井ゆかりの作品を掲載した「古典音読・暗唱ノート」を小中学生に配布し、日本語の美しい表現やリズムに親しむ機会を増やし、郷土への愛着や誇りを育てます。

福井の先人　橋本左内（左）、由利公正（右）（福井市郷土歴史博物館蔵）

百人一首を使った国語の授業

使える英語力を伸ばす

中学・高校生が英語の検定試験を受験する際の費用を支援するほか、英語を話す・聞くことを重視した授業を実施します。さらに、小学校の英語教科化に向け、5・6年生の担任教員に英語指導の研修を行い、教員の英語力向上を進めます。

小学校教員向けの英語研修

教育研究所を移転、強化

福井運動公園近くにある教育研究所を、閉校後の春江工業高校へ移転し、平成29年4月にオープン。大学入試制度改革などに対応した教員の指導力強化や、退職教員による若手教員への研修強化を図るほか、教員が自主的に行う指導方法の研究や、教材の開発などをサポートします。また、学力・体力日本一を支える福井の教育や歴史を、映像や展示により、県内外へ発信する「教育博物館」を全国で初めて整備します。

福井しあわせ元気国体・大会に向けた準備の加速化

あと2年！目指そう総合優勝

県民が一体となって応援し、良い成績をおさめた喜びを分かち合えるよう、福井国体の総合優勝を目指して競技力向上を図ります。
少年選手については、優れた指導者を派遣するほか、福井国体で主力となる新高校1年生の選抜チームによる県外遠征を行います。
成年選手は、有力選手の県内就職を応援する「スポジョブふくい」により、平成28年度は新たに60名の確保を目指すほか、福井県出身の「ふるさと選手」へ出場を依頼します。
競技会場については、メイン会場となる福井運動公園のうち、開会式と閉会式の会場にもなる陸上競技場や野球場を、4月1日から供用開始。市町の会場整備や、バリアフリー化も進めます。
また、新県民歌の普及、カウントダウンボードや横断幕の設置、ボランティアの養成、花いっぱい運動などにより、開催に向けた機運を盛り上げていきます。

バドミントンで活躍する山口茜選手

医療、福祉

「治す医療」から「治し支える医療」へ

身近な地域でリハビリや在宅医療を受けられるよう、急性期から回復期への病床転換や、在宅患者の受入れに必要な施設整備に対し支援します。また、地域での24時間の在宅医療の体制として坂井モデルの全県展開を進め、高齢者が住み慣れた地域で暮らせる社会を目指します。

がん検診をさらに推進

中小企業での40歳の健康診断時に、ピロリ菌検査を受ける費用を支援し、簡単に胃がんのリスクを検査できる機会を拡大します。
また、国立がん研究センターが平成29年度以降開始する、血液による13種類のがん検査システムを、県内拠点病院でも順次導入できるよう体制を整備します。

県立病院に脳心臓血管センター（仮称）を開設

循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科の3科が連携し、あらゆる血管系の疾病に対応できる「脳心臓血管センター（仮称）」の外来を、4月に開設します。
また、脳外科等の手術とカテーテル治療を同時に行えるハイブリッド手術室の整備に着手。平成30年度の稼働を目指します。

血管造影装置を配備したハイブリッド手術室（イメージ）

TPP対策

新たなブランド米　ポストこしひかり

コシヒカリ発祥の地である福井県が、新たなブランド米として開発を進めてきた「ポストこしひかり」。
平成30年度からの本格生産・販売に向け、いよいよ候補を1種に絞り込みます。栽培指針を定めたり、本格生産に必要な種子を増やします。
また、より高価格で販売するためのブランド化戦略を策定します。

県内各地で候補米を実証栽培

農林水産業を強い産業へ

九頭竜川下流地域に水を安定供給する、全国最大規模のパイプラインが完成します。これを利用して、高品質米の生産や、ネギなど水田園芸の拡大を進めるほか、ミディトマトなどの高収益品目の生産拡大や、企業的園芸の導入などにより、収益性の高い農業を目指します。
また、都市住民を呼び込む新たな農業ビジネスを創出するため、「ふくい農業ビジネスセンター」を設置。農家レストランや体験農園などの開業ノウハウを学んだり、伝統工芸などとのコラボを目指す異業種交流の拠点とし、新たな農業ビジネスにつなげます。
さらに、林業については、作業道や高性能林業機械を増やすなど、県産材生産の低コスト化を図るほか、福井県の主要漁業である定置漁業と底曳網漁業については、経営改善や、漁船の更新、網の改良にかかる費用を補助します。

定置漁業など主要漁業を支援

福井の食をアジア市場へ

ふくい貿易促進機構内に、農林漁業団体などとともに「ふくい食輸出サポートセンター」を設置。高い経済成長が見込まれるアジア諸国で、食文化提案会や物産展、現地バイヤーとの商談会を開き、福井の食材や日本酒、伝統的工芸品、観光などを組み合わせてPRすることにより、輸出を拡大します。

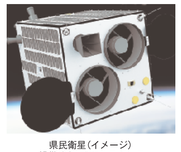
産業政策

福井発の研究開発を応援

産学官金が一体となって革新的な研究開発を行う「ふくいオープンイノベーション推進機構」では、約700人の研究者データベースを活かして、企業と研究者との橋渡しを行っています。今後さらに、ものづくりや新商品開発の支援資金として新たに10億円の融資枠を設け、企業の支援体制を充実させます。

県民衛星を宇宙へ

次世代の重要産業として成長が期待される宇宙産業。県内企業を中心に、超小型人工衛星の製造や衛星データの活用に関する研究開発を開始します。
平成31年度の打ち上げを目指し、平成28年度は、県内企業が人工衛星の実際の製造現場で技術を習得したり、設計を行う経費を支援。また、製造の際に微小な粉塵の混入を防ぐため、工業技術センター内にクリーンブースを設置します。


県民衛星（イメージ）
提供：㈱アクセルスペース

サンドーム福井を「ものづくりキャンパス」に

サンドーム福井の管理会議棟を、ものづくり産業の振興や人材育成の拠点となる「ものづくりキャンパス」として再整備します。工業技術センターからデザインセンターを移転し、3Dプリンタ等を備えたラボを併設することにより、ものづくり企業や県内デザイナーのレベルアップを図ります。
11月には、リニューアルした施設を活用し、伝統工芸の全国大会を開催。伝統工芸の体験や販売、工房のガイドツアーや商談会を行い、伝統の技を国内外に発信し、技術継承を図ります。

問合せ先　県財務企画課 0776(20)0233　福井県　平成28年度当初予算　検索

テレビ番組　3月20日（日・祝）FBCテレビ 7:00～7:30　おはようふくいセブン「平成28年度当初予算が成立」

県政だより 福井県